

第3回学校運営協議会 議事録

日 時：令和6年12月20日(金) 15:00～17:00

場 所：和歌山工業高等学校 大会議室

出席者

(学校運営協議会委員)

田中 一壽 氏 (和歌山商工会議所専務理事)

和田 通尚 氏 (海南市立巽中学校校長)

前田 隆一 氏 (本校全日制育友会会長)

高垣 晴夫 氏 (本校同窓会副会長)

西村 保展 氏 (本校同窓会副会長)

藤田 勝範 (本校校長)

(学校出席者)

阪中 潤 (全日制教頭) 大石 歩 (全日制教頭) 木田 誠治 (定時制教頭) 額田 智香子 (事務長)

(育友会役員)

堀 梨絵 様 阪上 貴史 様 阿部 佳代 様 次良丸恭子 様 田邊 邦規 様

- 【1】 開会
- 【2】 会長挨拶
- 【3】 校長挨拶
- 【4】 議事 (議長：田中会長)

(1) 本校の教育活動について報告及び協議

校長) 進路について、9月に就職活動が解禁となり、ほぼ卒業予定者は自分の進路が決まってきており、希望の就職先や進学先に行けるようである。

今年の就職者数は、卒業予定者の約6割となる見込みである。

少し前はもう少し高かったが、コロナ禍をこえて6割程度になってきている。

しかし、今後は就職の割合が7～8割くらいになって、和歌山をリードし、盛り上げていてもらいたい。

ニュース&トピックスに沿って、2学期の教育活動について説明を行った。

12/15 きのくにロボットフェスティバル

11月には和工で工業部会主催の高校生の部のロボット競技会を行った。ロボットを作って動かす作業の中には、「どうしたらいいのか？」の繰り返しがあり、それが学びに繋がっている。

12/6 企業説明会

生徒は進学・就職に関係なく全員参加した。非常に前のめりで聞いていた。

和歌山で頑張っている企業を早い段階から知る必要があるため、1年生も参加できないかを検討中である。労働政策課と相談をするが、予算やその日の日程、会場などを検討する必要がある。

12/4 携帯電話の授業中の使用禁止について

授業中に携帯電話の音が鳴って集中できないという生徒からの声があり、これまで指導が行き届いていなかったが、もう一度安心して学べる環境を整えるため厳しく指導していくこととした。

11/20 110周年記念の人文字写真撮影

土木科の生徒達が、人文字の測量などの準備を行い、ドローンを用いて撮影し、無事に終えることができた。

11/4 学生団体 WAKA×YAMA 長期課題解決型教育プログラム「若者における SNS トラブルー今、私と「ワタシ」の居場所を守るー」

審査員賞（1位）をもらうことができた。生徒が「SNSについて調べたい」と校長に直談判し、リサーチを重ね、小学生が楽しみながら学習できるカードゲーム「もやモン☆クエスト」を考案し、作成した。

10/26 商業教育フェスタに参加

生徒たちは、レーザー加工機で作成したコースターや栓抜き、椅子など、自分たちが作ったものを買ってもらい喜びを味わうことができた。買い手の顔を見るよい機会となった。

10/10 110周年記念式典・記念講演

本校工芸科卒業の成願さんを招き、「不易流行」を演題として記念講演していただいた。伝統や基礎を学び、その上で新しいものを取り入れていくことについてお話しいただいた。

（定時制について）

110周年記念式典と視聴覚鑑賞会を全日と合同で開催した。

11/21 文化祭 生徒と共に陶芸体験を行った。

工業では「ものづくり」を学ぶが、これまで販売する機会は少なかった。今年はロハスフェアと商業教育フェスタに参加したが、今後もいろいろなところに生徒を参加させて、地域・社会と一緒にあって生徒の「学び」の機会を増やしていきたい。

〈質問・意見〉

阿部) 息子の在籍する科（機械科）しか知らなかったもので、違う科の活動を知ることができた。工場見学をしてもらったこともとても良いと感じている。

阪中) 進路に関する資料についての補足

近年の報告については、途中で建築科が1クラスになったため、数字の違いが少しある。

ニュース&トピックスについての補足

若手教員が増えてきていることや普通科の教員にも企業のことを知ってほしいという思いから、先日、教員向けの企業説明会を行った。進路指導をする際には、教師も企業のことを知らないと、生徒に企業を進めたり、説明したりすることができない。企業によって特色があることやその企業が求める生徒像などを知ることができた。

田中) 企業見学や企業説明会などは誰が決めるのか。生徒の意見が反映されることはあるのか。

大石) 各科で1年間の計画を立て、この時期にはこの企業の見学を行うなど決まっていることが多い。授業に余裕ができれば、こちらからお願いして企業を訪問させて頂くこともある。

田中) この企業を見学したいなど、生徒からの提案で企業見学が実現したりすることはあるのか？また、保護者からの意見を取り上げることはあるのか？

大石) 今のところないが、検討の余地はある。

阪上) 保護者の立場からいえば、意見は出にくいと思う。

田中) 私の仕事の関係上、希望があれば企業に見学会や体験会を依頼することもできるので、相談していただければ、協力できることもある。

- 高垣) こどもをなぜ工業高校に進学させたのか保護者に聞きたい。資格取得が大きな目的なのか？
普通科の他にも商業や農業の専門高校があるのになぜ和工を選んだのか。こどもの意思を優先したのか。
工業系の会社に就職することを目的としているのか。
- 阪上) 息子が1年生に在籍しており、私も和工卒である。
普通科の選択肢は、こども本人には無かった。自然な流れで本校に入学することとなった。
私が育友会に入ったのは、こどもや学校、科の状況があまり分かっていなかったからである。他の保護者はもっと分かっていないと思う。丁寧な就職指導を期待する。
- 田中) 就職に向けた指導はどのようにしているか。
- 阪中) 実際に就職や進学を意識して、進路を考え出すのは2年生の後半からになるかと思う。
例年1年生で行っていた3日間のインターンシップは今年は実施しないこととした。今後は、長期休暇中などに希望者のみのインターンシップを検討している。
- 堀) こどもは先日進路ガイダンスに参加したが、自分の進路について想像がしにくいと言っていた。説明会だけでは、仕事内容などの概要だけしか分からない。そもそも和工にはレスリングをするために入学したこともあるので、いろいろな実感ができる体験をさせてあげてほしい。
- 校長) モニター等を用いた企業の説明だけではわかりにくいかもしれないが、その企業を知るきっかけにはなるかと思う。科別では、実際に体験するところまではいかなくて見学会は実施している。まずは生徒たちにいろいろな企業を見せることが大切であると考え。夏休み等で長期にわたって希望者によるインターンシップなどを行えば、実感の沸く仕事の体験もできるのではないか。
- 大石) 希望者によるインターンシップについては、1、2年生希望者では検討している。ただし、あくまでも希望者なので、生徒が自ら希望しなかったらインターンシップには行けない。生徒たちは、部活生も多いが、将来を見据えて日程を調整して、自分の将来について考えインターンシップに参加していく必要がある。
- 高垣) 企業の声を聞くと、近年、若い子が就職して来てくれないという声をよく聞く。
- 次良丸) 私の息子達は、十数年前に和歌山工業高校を卒業している。そのときは、就職氷河期であった。今の進路状況を見て大変うらやましく思う。次男は検定マニアでいろんな検定を取得して、どこでも就職ができると言われていた。しかし、就職試験に失敗し、次の就職先はなかったため進学をすることになった。ただ、今も本校で教えてもらったことをベースに仕事をしている。
また、高卒と大卒では初任給が大きく変わる。
少子化となり、高等学校も統合が進み、今後は生徒の取り合いになっていくのではないかと思うが、和歌山工業高校は必要な学校であると思う。不景気にも耐えられる技術や技能を身に付けさせてほしい。
小学生にも工業高校をアピールし、ものづくりの魅力を伝えていく必要がある。メディアを通してのアピールはすごく良いと感じているので積極的に行っていくほうがよい。
- 和田) 中学校では、土木学習（トンネル作業やドローン作業の見学）を行っている。土木は、しんどいや汚れるというイメージであるが、実際はICTなど最新機器を用いて作業を行っていることなど知る機会となっている。
海南市立の中学校であるため、地元海南の企業を知る機会もあり、シュロのほうき作りなども体験している。しかし、それが直接工業高校への進路に繋がっているかは分からない。
- 田中) 校則について意見はありませんか？ 制服についてなどもご意見はありませんか？
- 阿部) 今朝、息子にいらぬ校則はないか？校則で困っていることはないか？と聞いたが、ないと言われた。
- 阪上) 私も校則で困っていることはこどもからは聞かない。何がダメで、何がいいのか詳しく知りたい。
- 大石) 本校の校則については、ホームページにアップしている。時間帯を守ればアルバイトもできる、髪の毛については髪色やパーマは再登校指導としている。携帯電話は授業中に使用しないこととしており、周りに迷惑

をかけないように指導している。校内での使用については、最低限のマナーを守ってほしい。

校長) 携帯電話については、校内への持ち込みは今や防げなくなっており、授業中は必要以外に使ってはいけないこととしている。

田邊) 携帯電話を学校に持ち込んではいけないと校則に明記されているのか。

今時、校内の携帯電話を校内へ持ち込むことはグレーゾーンであるのかと思う。

大石) 今後、携帯電話は授業でも活用していくようになるのではないかと。そのため、ルールは変えていかないといけない。タブレットやPCの購入は家庭への経済的な負担が大きい。今の一人一台端末は専用ロッカーがあるので、そこに入らないのなら持って帰らないといけな。クラスによっては、定時制と教室を共有しているため、机の中に入れて帰ることはできない。

田中) 先ほどのルール違反の他の問題もたくさんあるとはどういうことか？

大石) 窃盗や薬物により指導したり、退学となる生徒がいる。生徒全体の1%くらいの数である。

田中) 法に触れることなどは、教員が指導していくには限界があると思う。関係する専門機関などに協力を得て、学習する機会を設けることが必要であり、効果的であると思う。

木田) 定時制では毎年外部講師(和歌山県業務課)を招いて、大麻や闇バイトの誘惑について学んでいる。生徒の反応としては、知っているようで知らないことが多いようで、しっかりと聞いているように感じる。

高垣) 薬物などは、きっと本人は相談できない。退学したら社会と切れてしまい、指導ができなくなるのではないかと。学校からの支援が届かなくなる。

西村) 情報モラルの指導は家庭より学校ですべきだと思う。情報の発信の仕方や情報の扱い方の大切さを教えるのは、学校の教育でカバーできたら良いと思う。

前田) 本日の学校運営協議会に参加するにあたり、他の保護者からの意見を預かってきた。

指定校推薦について

保護者懇談の際に大学情報を提示され、志望校を30分で決めなければいけなかった。

志望校の情報のコピーを持ち帰ることはできなかつたため、家族で共有できなかつた。

建築技術クラブみたいなクラブがあれば、小学校などで工業高校の良さや「ものづくり」の楽しさをアピールできるのではないかと。

大石) 指定校推薦の資料についてはコピーすることはできないが、教室に置いてあり、情報については事前に生徒に示しており生徒は検討する時間はあつたと思う。懇談会の際に志望校をその場で決めてもらうことはなく、保護者の認識の違いがあるのかもしれない。一度確認しておく。

クラブの部費について

大石) (大石教頭より資料について説明を行った。) これより大きな金額になることもある。

田中) 月に数万円のクラブ費がかかってくることになるが、保護者から不満の声があつたりしないかと。

大石) 金額が大きいクラブのほとんどは保護者会があり、集金なども保護者会が運営しているのがほとんどである。スポンサーなどの補助がないクラブも多く、遠征やユニフォームで費用は大きな負担となっている。

田中) まとめ

- ・生徒からいろいろなリクエストの機会を設けることはできないか。
- ・進路決定や将来したい仕事を考える際に、仕事の想像がつかないという声があるため、実感を伴う説明会や体験会の機会の提供をお願いしたい。
- ・2年生の後半から進路について学び、意識を高めるようにしてもらいたい。
- ・本校で学んだことが、今後の仕事のベースになることは、念頭においてもらいたい。
- ・ルールを守ることは、学校としてしっかりとアナウンスしていく。

- ・保護者にもっと学校に対して意識を向けてもらうようにするために何をすべきかを考える。

最後に、藤田校長より、閉会の挨拶を行って、第3回学校運営協議会を終了した。

第4回学校運営協議会については、クラブ活動などで生徒にかかる費用負担などについても協議することとし、日程については、メール等で日程調整させて頂くこととした。